

特集 | ゼロ年代の建築コンペ事情

もっと
コンペは
面白い!



邑楽町庁舎コンペ問題＝建築家集団訴訟「和解」の意味・「建築家集団訴訟の成果」清水勉弁護士

「海外コンペから見える日本の問題点」＝藤原徹平(隈研吾建築都市設計事務所)

くまもとアートポリス再考＝「コンペが広がる手がかりは、何よりも建築家が変わること」伊東豊雄

「公共建築に希望はないと思っていたのが、アートポリスで希望が持てた」小嶋一浩

「『建築＝文化』の意識が継続の秘訣」くまもとアートポリス事務局

コンペ審査員のココロ＝「審査員にとって、審査は表現行為」五十嵐太郎

「六花亭 Tea House Competition」五十嵐淳

あのコンペ、どうなったの?＝京阪中之島線駅企画デザイン・

JIA U-40六甲山展望台・八尾商工会議所新会館

各地域に拠点を置く設計事務所の
作品集

建築集

コンペでは、与件の先のイメージの問題が、自由に与えられています。だから各事務所が蓄積してきた表現や哲学の問題を育てる最大のチャンスになる(インタビュー! 藤原徹平)。菊地尊也君に1票だけ入れて、残りの5票は全部捨てました。彼の作品は絶対的に格が違ったから、他の作品と同列には扱えなかつたんです(インタビュー! 五十嵐太郎)。

オペニオンの視線

論評

モダン建築のメッセージ
美しき構造設計の世界⑧

同潤会アパートの残像を求めて＝松隈洋
稲山正弘「法隆寺金堂」

世界大不況下、都市政策に
「グリーン・ニューディール」を＝宮本憲一

自然な混ぜ垣で 街を楽しく

木村求

住民同士が樹種
や色彩を楽しめる
自然な感じの混ぜ
垣が広がれば、街
はきっと良くなり
ますよ。



ジャーナルギャラリー



大阪中央郵便局を 残したい